

マーケット・レポート

日銀金融政策決定会合(10月29・30日)の注目点

6会合連続金利据え置き 利上げ判断時期の接近が示唆される

- 金融政策：政策金利を0.50%で据え置き。前回同様、2委員が0.75%への利上げを主張し反対
- 経済・物価見通し：展望レポートはほぼ変わらず、総裁は見通しの実現確度が高まっていると評価
- 総裁会見：「米経済の下振れリスクは低下」、「春闘の初動モメンタム」「25年度企業収益」に注目

1. 政策金利を0.50%で据え置き、2委員が前回に続き反対票。経済・物価の見通しは概ね変更なし

● 金融政策：市場予想通り政策金利を据え置き

日銀は、政策金利(無担保コール翌日物^{*1})の誘導目標を0.50%程度で据え置くことを賛成多数(賛成7反対2)で決定しました。9月会合同様、高田・田村両委員が0.75%への利上げを主張し反対しました。

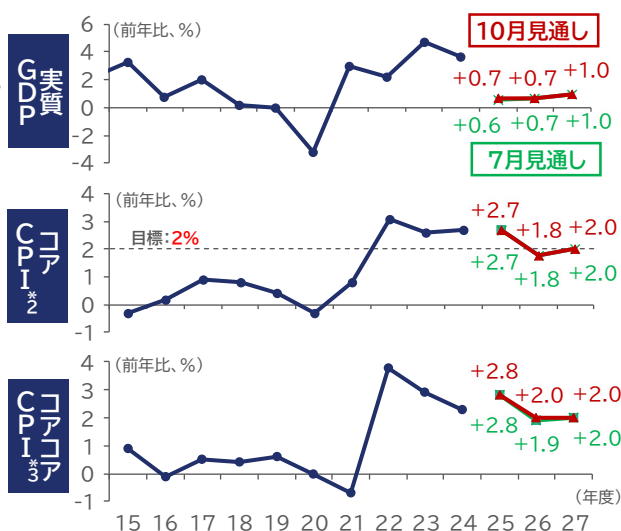
● 展望レポート：経済・物価見通しとも概ね変更なし

・経済見通し：実質GDP成長率は25年度が前回7月の+0.6%から+0.7%に上方修正され、その他は据え置かれました。リスクバランスでは「2026年度は下振れリスクの方が大きい」と前回から変化なく、AI関連投資が資産価格の変動も伴って「経済の押し上げ・押し下げ双方の要因となりうる」と追記されました。

・物価見通し：コアCPIは変更なく、コアコアCPIが26年度が前回の+1.9%から+2.0%に上方修正され、6年連続で2.0%を上回る見通しが示されました。リスクバランスは、「概ね上下にバランスしている」と据え置かれました。

・金融政策運営：実質金利がきわめて低い水準にあることを踏まえ、経済・物価が見通し通り推移すれば、引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和度合いを調整していく方針が維持されました。

図表1. 政策委員の経済・物価見通し(中央値)



【出所】Haver Analytics、日銀の公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

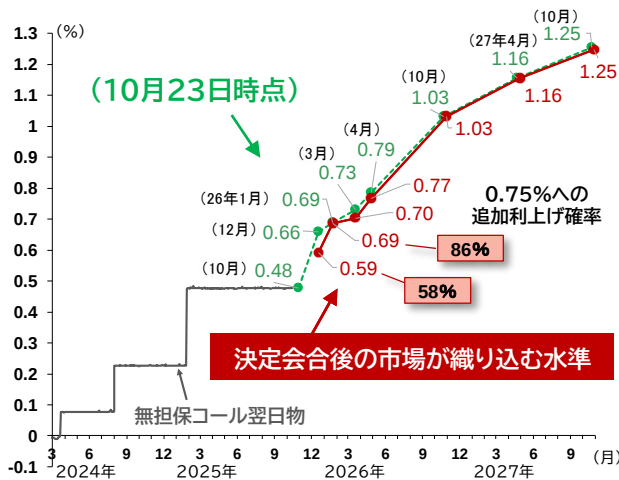
2. 植田総裁「春闘の初動モメンタムが重要」と25年末・26年初の利上げ判断を示唆

● 植田総裁の記者会見のポイント

今回の会見では、植田総裁が利上げ判断で重視する項目として挙げる①米国経済の動向②米関税政策が国内経済に与える影響③食品価格の動向に関する質問が相次ぎました。①については、「米経済の下振れリスクは7月に見ていた頃と比べてやや低下している」と述べ、見通しの改善が示されました。②については、「春闘の初動モメンタム(勢い)」「企業の25年度収益予想」を注目材料として挙げました。③については、物価の上振れ・下振れ双方につながる可能性があることが指摘されました。

会見後のOIS^{*4}市場が織り込む利上げ確率は、12月会合(18・19日)が58%、来年1月会合(22・23日)は86%です(右図)。今後は、11月後半に主要企業の中間決算、12月初旬に主要産業別組合の春闘賃上げ方針、日銀短観(12月15日)、日銀支店長会議のヒアリング情報(1月初旬)等が発表されます。日銀は、これらを見極めた上で12月会合、或いは来年1月会合で追加利上げを決定する可能性が高いと判断されます。なお、円安が一段と進み12月利上げの可能性が高まる展開には、予め留意が必要と考えます。

図表2. 市場の利上げ織り込み



【出所】ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

※本文、図中の*については、最終ページの<補足>をご覧ください。

※当資料の使用に際し、最終ページの<当資料に関するご留意事項>を必ずご覧ください。

作成：運用戦略部 投資戦略グループ エコノミスト 日高



りそなアセットマネジメント

RESONA

〈補足〉

- *1 無担保コール翌日物:金融機関がコール市場にて、無担保で翌日に返済する取引における金利を示す。無担保コールレート(オーバーナイト物)とも表記される。日本の政策金利の操作目標。
- *2 コアCPI:消費者物価指数(除く生鮮食品)を示す。
- *3 コアコアCPI:消費者物価指数(除く生鮮食品・エネルギー)を示す。
- *4 OIS(Overnight Index Swap):金利スワップ取引の一種であり、一定期間の翌日物金利を参照とする変動金利と固定金利を交換する取引。市場参加者における、日銀の政策金利の見方の参考値として用いられることが多い。

〈当資料に関するご留意事項〉

■当資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体としてお渡しする「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。